C2

北琉球奄美喜界島小野津方言に見られる呼称末尾の母音長の交替

白田理人（志學館大学）
shiratarihito@shigakukan.ac.jp

1. はじめに

北琉球奄美喜界島小野津方言では，macuu「マツ」，žiroo「ジロウ」といった人名，及び，ammaa「おばあさん」，okkaa「おかあさん」といった親族呼称末尾の長母音について，主格助詞=ŋa，主題助詞=ya などが後続すると，macu=ŋa「マツが」，žiro=ya「ジロウは」，amma=ŋa「おばあさんが」，okka=ya「おかあさんは」のように短母音への交替が観察される（重野・白田 2016）．本稿はこのような呼称末尾の母音長の交替現象を記述する．

2. 背景

2.1. 北琉球奄美喜界島小野津方言

北琉球奄美喜界島方言（以下喜界島方言）は，琉球諸語の話される地域のうち最も北東に位置する鹿児島県大島郡喜界町で話されており，琉球諸語を南北２つに分けたうちの北琉球（沖縄本島以北）に属する．喜界島には 30 余の集落があり，喜界島方言には語彙面・音韻面・形態面に渡って集落差が見られる．島内北部に位置する小野津・志戸桶（及び佐手久）の各集落の方言は，中舌母音を保持している点や，*ki > tɕi の変化を経ていない点といった分節音上の特徴（岩倉 1934・木部ほか 2011 参照），及びアクセントの面（松森 2011・上野 2012 参照）でその他の中南部の方言と異なっていることが指摘されている．本稿は，小野津集落で話される方言（以下小野津方言）を対象とする．データは，筆者が小野津集落出身・在住の女性 3 名（昭和 10 年生，昭和 12 年生，昭和 20 年生）を調査協力者とした聞き取り調査で得たものを用いる．

2.2. 小野津方言の音素体系

表 1 及び表 2 に，本稿で用いる表記により，小野津方言の音素一覧を示す．音素解釈は白田（2017）に従う．[ ]内は音声実現である．留意点は以下の通りである．

- 音声上の長母音は短母音の連続として解釈する（e.g. /mii/ [mʲiː]「見ろ」）．
- 前舌母音と中舌母音の対立は両唇音あるいは軟口蓋音に後続する場合のみ見られる．
- 語末及び形態素末の n は後続子音と調音点が同化する．発話末では[ɴ]で現れる．
- /s/は母音/i/の前で口蓋化し，[ɕ]で実現する（e.g. /sima/ [ɕima]「島」）．

表 1: 小野津方言の母音音素一覧

	前舌	中舌	奥舌
狭	i	ï	u
半狭	e	ë	o
広	a		

表 2: 小野津方言の子音音素一覧

		両唇	歯茎	歯茎 硬口蓋	軟口蓋 ～声門	唇軟口蓋
破裂音	無声無気	p[pˀ]	t[tˀ]		k[kˀ]	k^{w}[$\widehat{kp}$ˀ~$k^{ˀw}$]
	無声有気	p^{h}[p^{h}~ɸ]	t^{h}		k^{h}	
	有声無気	b	d		g[g]	g^{w}[$\widehat{gb}$~g^{w}]
破擦音	無声		ts	č[tɕ]		
	有声		z[(d)z]	ž[(d)ʑ]		
摩擦音	無声		s[s~ɕ]		h	
鼻音		m	n[n~m~ɲ~ŋ~ɴ]	ň[ɲ]	ŋ	
弾音			r[ɾ]			
接近音				y[j]		w

2.3. 長母音と短母音の区別について

小野津方言は母音の長短が音韻的に区別される．表 3 に狭母音 i，ï，u，及び，広母音 a に見られる短母音と長母音の最小対を示す．「ア」は上野（2016）の分類に基づいて判断したアクセント型である．先行研究（上野 1993，1995，木部ほか 2011）で語形が示されているものは，そのうち早いものを「先行」に頭文字と西暦の下二桁で示している．太字は本稿が主眼とする母音長の交替を示す語例である．

表 3: 母音長短最小対語例

	短母音				長母音			
母音	意味	語形	ア	先行	意味	語形	ア	先行
i	汗	a[si	β	U93:106	昼食	[a]si[i	β	K11:194
i	味	[a]ži	α	K11:170	おじいさん	**a[ži]i**	α	
i	尻	ma[i	β	U93:86	娘／女	**ma[i]i**	α	
i	薬	su[i	β	U93:145	スエ	**su[i]i**	α	
i	石	[i]si	α	U93:72	イシ	**i[si]i**	α	
ï	祭り	[u]m[mï	β		おじさん	**[u]m[mï]ï**	α	
u	臍	[p^{h}u]su	α	U93:68	蜜柑の一種	p^{h}u[su]u	α	
u	松	ma[cu	β	U93:103	マツ	**ma[cu]u**	α	
u, i	友	[du]si	α	K11:191	雑炊	[du]u[si]i	α	K11:194
a	針	p^{h}a[i	β	U93:102	秤	[p^{h}a]a[i	β	U93:151
a	波	na[mi	β	U93:89	あなた	[naa]mi [naa]me	γ	
a	尻	ma[i	β	U93:86	椀	[ma]a[i	β	K11:203

表３に示した語例のうち，後述する呼称名詞の末尾音の交替が起こり，さらに，アクセントの条件が整う場合，対立が失われる（以下(1)参照）．このことから，本稿で扱う呼称名詞の母音長の交替は音韻的な長母音と短母音の間の交替であるといえる．

(1) 母音長の対立が失われる語例

a. [ma]cu[ŋa 「松が／マツが」
b. [ma]i[ŋa 「尻が／娘が」
c. [su]i[ŋa「薬が／スヱが」
d. [u]mmï[ŋa「祭りが／おじさんが」

半狭母音 e, ë, o は，本来語では基本的に母音融合によって生じており，閉音節の場合（以下（2）に示す）を除いて短母音は稀である．母音の長短の最小対も見つかっていない．

(2) 閉音節半狭短母音語例

a. se-n+p^{h}acuu（酒 s-複合接辞+お初）「お初として供える酒」cf. see「酒」，p^{h}acu「お初」
b. tooto-n+mëë（墓-複合接辞+前）「墓，墓前」cf. tootoo「墓」，mëë「前」
c. p^{h}ë-n+yaa（南-複合接辞+家）「南隣の家」cf. p^{h}ëë「南」，yaa「家」
d. t^{h}oppyo-ŋkwaa（かぼちゃ-指小辞）「小さいかぼちゃ」cf. t^{h}oppyoo「かぼちゃ」

呼称名詞は，単独では原則として末尾に長母音を持つ．以下(3)に示すように，人名は，戸籍上は短母音でも小野津方言では長母音となっている語例が見られる．

(3) 人名末尾長母音語例

a. macuu「マツ」
b. čiyuu「チヨ」
c. kanii「カネ」
d. kamïï「カメ」
e. isii「イシ」
f. suii「スヱ」

3. 呼称名詞の母音長の交替

3.1. 本稿で扱う母音長の交替の範囲

本稿では，呼称名詞の語幹末における母音長の交替を記述する．この他の母音長の交替として，閉音節を作る接辞（(2)の複合接辞及び指小辞など）が付くと，名詞の種類によらず短母音化が起こりうる（e.g.「子犬」iŋŋa-ŋkwaa cf.「犬が」iŋŋaa=ŋa）．また，複合語の後部要素は長母音化することがある（(2)a 参照）．これらの交替は本稿では扱わない．

3.2. 短母音と交替する場合

次ページ表 1 に，単独形の長母音が短母音と交替する語例を示す．長母音と対応する短母音は太字で示している．また，単独形について上野（2002b）（及び木部ほか 2011）に報告があるものを併記している．表中の語例に示したように，主格助詞=ŋa，主題助詞=ya が後続するときには，呼称名詞の末尾が短母音で現れる（なお，呼称名詞に加え 2 人称代名詞も同様の交替を示すが，これについては助詞付きの語例が上野（前掲）で報告されている）．その他の 1 モーラの格助詞／取り立て助詞が後続する場合も同様である（次ページ表 4 参照）．なお，主題助詞=ya は短母音に後続する場合は通常融合するが（e.g. macu「松」，maco=o「松は」，sui「薬」，sue=e「薬は」，ummï「祭り」，ummë=ë「祭りは」），呼称の場合は融合しない．また，2 音節以上の名詞の場合は，複数接辞-taa が後続する場合も短母音が現れる．一方，1 音節名詞の場合，複数接辞-taa が後続する場合は長母音が現れる．

表 4: 母音長交替語例

	意味	単独	主格助詞「～が」	主題助詞「～は」	複数接辞「～たち」	先行研究
親族呼称	おじいさん	ažii	až**i**=ŋa	až**i**=ya	až**i**-taa	U02b:12
	おばあさん	ammaa	amm**a**=ŋa	amm**a**=ya	amm**a**-taa	U02b:14
	おばあさん	anii	an**i**=ŋa	an**i**=ya	an**i**-taa	
	おじさん	užii	už**i**=ŋa	už**i**=ya	už**i**-taa	U02b:12
	おじさん	ummïï	umm**ï**=ŋa	umm**ï**=ya	umm**ï**-taa	
	おじさん	yakkïï	yakk**ï**=ŋa	yakk**ï**=ya	yakk**ï**-taa	U02b:12
	おばさん	ubaa	ub**a**=ŋa	ub**a**=ya	ub**a**-taa	U02b:12
	おばさん	baa	b**a**=ŋa	b**a**=ya	baa-taa	
	お父さん	otoo	ot**o**=ŋa	ot**o**=ya	ot**o**-taa	
	お母さん	okkaa	okk**a**=ŋa	okk**a**=ya	okk**a**-taa	U02b:14
	お兄さん	ňii	ň**i**=ŋa	ň**i**=ya	ňii-taa	K11:191
	お姉さん	nee	n**e**=ŋa	n**e**=ya	nee-taa	
	息子	boo	b**o**=ŋa	b**o**=ya	boo-taa	
	娘	maii	ma**i**=ŋa	ma**i**=ya	ma**i**-taa	
人名	マツ	macuu	mac**u**=ŋa	mac**u**=ya	mac**u**-taa	
	チヨ	čiyuu	či**y**u=ŋa	či**y**u=ya	či**y**u-taa	
	イチロウ	ičiroo	ičir**o**=ŋa	ičir**o**=ya	ičir**o**-taa	
	ジロウ	žiroo	žir**o**=ŋa	žir**o**=ya	žir**o**-taa	
	サブロウ	saburoo	sabur**o**=ŋa	sabur**o**=ya	sabur**o**-taa	
	マサタロウ	masataroo	masatar**o**=ŋa	masatar**o**=ya	masatar**o**-taa	
人称代名詞	お前	daa	d**a**=ŋa	d**a**=ya	(da-nnaa) (daa-kya)	U02:4,9,14

表 5: 呼称末尾短母音+助詞語例

意味	与格助詞「～に」	共格助詞「～と」	焦点助詞	添加助詞「～も」
おばあさん	amm**a**=ňi	amm**a**=tu	amm**a**=du	amm**a**=mu
マツ	mac**u**=ňi	mac**u**=tu	mac**u**=du	amm**a**=mu

3.3. 長母音が現れる場合

単独形と同様，長母音が現れる場合として，2 モーラ以上の格助詞・取り立て助詞が後続する場合が挙げられる（次ページ表 6 参照）．また，文末助詞は，1 モーラ助詞であっても長母音が現れる（表 6 参照）．

表 6: 呼称末尾長母音+助詞語例

意味	奪格助詞「～から」	限定助詞「～だけ」	真偽疑問助詞	疑問詞疑問助詞	断定助詞
おばあさん	ammaa=kara	ammaa=bëë	ammaa=na	amma=yo	ammaa=doo
マツ	macuu=kara	macuu=bëë	macuu=na	macuu=yo	macuu=doo

なお，呼称名詞（及び 2 人称代名詞）以外で末尾が長母音の名詞に 1 モーラの格助詞・取り立て助詞が後続する場合，母音長の交替は起きず，長母音が現れる．

(4) 人名末尾長母音語例

a. magoo=ŋa「孫が」
b. mayaa=ŋa「猫が」
c. pʰatee=ŋa「畑が」
d. gusii=ŋa「棒が」
e. kʰyookdee=ŋa「兄弟が」
f. yuuwëë=ŋa「お祝いが」

3.4. アクセントと母音長交替現象の関わり

アクセントと母音長の交替の相関として，長母音が現れる場合と短母音が現れる場合でアクセント型が異なり，長母音では 1 音節名詞の場合 γ 型，2 音節以上の名詞の場合には α 型であるのに対し，短母音が現れる場合はそれぞれ β 型で実現する．以下にアクセント付きの語例に上野（2002b）からの対照語例を併記して表に示す．

表 7: 呼称名詞のアクセント語例と上野（2002b:3）からの対照語例

	長母音	対照語例			短母音	対照語例		
意味		意味	語形	ア		意味	語形	ア
お姉さん	[ne]e	血	[či]i	γ	ne[ŋa	鍋	na[bï	β
マツ	ma[cu]u	昨日	ki[ňu]u	α	[ma]cu[ŋa	鍋が	[na]bï[ŋa	β
イチロウ	[i]č[ro]o	烏	[ga]ra[sa]a	α	[i]čiro[ŋa	刀が	[ha]tana[ŋa	β

また，上野（2002a）によれば，α 型 2 モーラ名詞は 1 モーラ助詞が後続すると下降の位置が 1 モーラ後ろにずれるが（e.g. [mï]zu「水」，mï[zu]ŋa「水が」），これは 3 モーラ以上の名詞の場合や，2 モーラ助詞が後続する場合には起こらない（e.g. tʰa[ta]mï「畳」，tʰa[ta]mïŋa「畳が」，[mï]zukara「水から」）．筆者の調査では，この下降位置の交替は 1 モーラの文末助詞が後続する場合には起こらず（e.g. [mï]zuna「水か？」），1 モーラの格助詞・取り立て助詞が後続する場合のみに起こる交替である．この条件は呼称名詞末尾が短母音で現れる条件と同じである。これが偶然の一致であるのか，それとも，この 2 つの交替現象に何らかの関連があるといえるのか，今後の調査研究が求められる．

4. まとめと展望

本稿では，呼称名詞末尾の母音長の交替現象について記述した．呼称名詞末尾の長母音を持つ一方，1 モーラの格助詞・取り立て助詞が後続する場合に短母音と交替することを示した．また，母音長の交替にしたがってアクセント型も交替すること，呼称名詞末尾の短

母音の出現環境がα型2モーラ名詞の下降位置がずれる環境と一致することにも言及した．

呼称名詞の母音長の交替が生じた歴史的プロセスに関連して，奄美大島方言では，呼称に用いる名詞の末尾が通常短母音で現れ，呼びかけの時に長母音と交替する場合がある（e.g. amma「おばあさん」，ammaa「おばあさん（呼びかけ）」，wuži「おじさん」，wužii「おじさん（呼びかけ）」）．小野津方言に見られる母音長の交替は，このような呼びかけにおける長母音が語彙化（音韻化）する過程のものである可能性がある．ただし，本稿では割愛したが代名詞複数形でも同様の交替があり（e.g. wa-nnaa「私たち」，wa-nna=ŋa「私たちが」，ari-nnaa「彼ら」，ari-nna=ŋa「彼らが」），他方言も含め，さらなる調査研究が必要である．

謝辞

本稿に示したデータはJSPS科研費15J02695，16K21248，及び国立国語研究所共同研究プロジェクト「日本の消滅危機方言・方言の記録とドキュメンテーションの作成」（プロジェクトリーダー｜木部暢子）の助成を受けて行った調査によるものである．

参考文献

岩倉市郎（1934）「喜界語音韻概説」『方言』4:10, 12-23.

上野善道（1993）「喜界島方言の体言のアクセント資料」『アジア・アフリカ文法研究』21, 41-160.

上野善道（1995）「喜界島方言の活用形と複合名詞のアクセント資料」『アジア・アフリカ文法研究』23, 151-236.

上野善道（2002a）「喜界島諸方言の付属語のアクセント」第4回「沖縄研究国際シンポジウム」実行委員会（編）『世界に拓く沖縄研究』, 290-298. 沖縄：第4回「沖縄研究国際シンポジウム」事務局.

上野善道（2002b）「喜界島小野津方言のアクセント調査報告」『琉球の方言』26, 1-15.

上野善道（2012）「琉球喜界島方言のアクセント―中南部諸方言の名詞―」『言語研究』142, 45-75.

上野善道（2016）「喜界島小野津方言のアクセント体系－外来語と地名語彙から見る－」『音声研究』20:3, 95-111.

木部暢子・窪薗晴夫・下地賀代子・ローレンス ウエイン・松森晶子・竹田晃子『消滅危機方言の調査・保存のための総合的研究 喜界島方言調査報告書』東京：国立国語研究所.

重野裕美・白田理人（2016）「北琉球奄美方言における有生性階層－奄美大島浦方言と喜界島上嘉鉄方言・小野津方言を例に－」『広島経済大学研究論集』38:4, 111-133.

白田理人（2017）「鹿児島県喜界町小野津方言」『文化庁委託事業報告書 平成28年度 危機的な状況にある言語・方言のアーカイブ化を想定した実地調査研究』, 1-27. 沖縄：琉球大学国際沖縄研究所.

松森晶子（2011）「喜界島祖語における3 型アクセント体系の所属語彙―赤連と小野津の比較から―」『日本女子大学紀要文学部』60, 106-87.